

## アフターファイブ

先日他のことをしてテレビから「アフターファイブ」という言葉が聞こえてきて直ぐには意味が判らず、思わず画面を見直した。初老の勤め人夫婦が思い立ってダンスを習いに教習所に通っているという話。二人がくるくる廻るのを眺めながらしばらく考えてやっと判った。五時以後、つまり仕事の終わったあとか。

でもそれだけではなくて、自分を解放する趣味の為の時間とか、もっと積極的に生き甲斐の感じられることという意味を込めていつているらしい。「アフターファイブ」か、なるほど。五時以後といったのでは充足した時間という感じは含まれないのか。

そういえば「ザ・デイ・アフター」というタイトルの映画があった。「核戦争が始まったその日以後のこと」という意味である。どう訳したものか難しくて英語のままにしたのかも知れないが、私はこれは敢えて訳さないでカタカナのままにしておいてかえって良かったという気がしている。カタカナのまま放り出していると、無闇に核兵器を造って脅かし合ったのはお前たちで、俺たち日本人の責任じゃあないぞ、拳銃の果てにととうとう皆で死ぬことになったじゃないか、これはみんなお前たちの責任だぞという抗議と悲鳴と悔しさなどなどの複雑な気持ちが一緒くたにこもっている気がする。

地球の全生物が死滅することが決まった日は絶対に「その日」などではなくて、「ザ・デイ」である。しかも「アフター」はもう無い。

ところで私自身のアフターファイブだけれど、火曜日はフルートの練習日である。六時半からなのでいつもなら一度帰宅してから出かけるのだが、会場が今月に限って中央公民館に確保出来なくて大船行政センターになった。勤め先に近いので、朝から楽器と楽譜を鞆に入れておいて「五時以後」直行する。

五時通信の例月十日が火曜日だったことはこの三年間無かったが、二月は珍しくそうだった。蕎麦でも喰って少し早めについて独習していることにした。